

2022.06.19. 確固たる信仰 Mac 牧師

今朝の第二礼拝は、皆さんを「第一テサロニケ人への手紙」に招きます。1章2節から読みます。可能な方はご起立ください。今朝の聖書箇所朗読のあと祈りましょう。繰り返しますが、「第一テサロニケ人への手紙」1章2節から、神の御言葉をお読みします。

I テサロニケ 1

2 私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。

3 私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。

4 神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。

5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおりで。

6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

7 その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいるすべての信者の模範になったのです。

8 主のことばがあなたがたのところから出て、マケドニアとアカイアに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰が、あらゆる場所に伝わっています。そのため、私たちは何も言う必要がありません。

9 人々自身が私たちのことを知らせています。私たちがどのようにあなたがたに受け入れてもらったか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、

10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスです。

今朝の学びに、主が祝福下さるよう祈りましょう。

天なる御父よ。今日、この父の日に、私たちは心から感謝しています。あなたが私たちの御父であられることを毎日、大変嬉しく思います。そして毎日があなたの日です。今朝、あなたの家で行われる全ての栄誉と栄光をあなたが受け取れるよう、あなたの御名のための祝福を求め、私たちはあなたに惜しみなくそれをお返しします。ここがあなたの家です。

主よ、今朝のこの学びを祝福し、聞く耳のある全ての人に油を注いでください。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ありがとうございます。ご着席ください。今朝の2つ目の学びのタイトルは、「確固たる信仰」です。このタイトルがふさわしいだけでなく、二つの目的も果たす事を信じますまず第一に、テサロニケの教会は、自分たちが示した信仰に基づき、神の聖霊によって確固たる信仰を証明しました。そして第二に、彼らが示した信仰に基づいて、この聖句箇所を読むすべての教会は、神の聖霊によって、自分たちの信仰に関しても罪を示されるべきです。わかりますか？ これはシンプルなメッセージですが、そうでなければならず、理由は、福音がシンプルなメッセージだからです。聞いてますか？ このことを本当に理解しておかないと、迷ってしまいます。それがまがいものになるのです。考えてください。この教会は、使徒パウロやシンプルな福音を伝える人たちから、このような手紙をもらったのです。頭を整理しましよ

う。彼らは、福音が宣べ伝えられたことによって、このような賞賛を受けたのです。福音の宣べ伝えが、彼らの反応と確固たる信仰につながったのです。これらの節で検証するのは、それだけで十分です。さて、これらの節の中から、多くの教訓を見出すことができます。しかし、今日は時間の関係上、その多くには触れられませんが、しかし、今朝の時間を使って 彼らの信仰がどのようなものであったのか、ある側面から見てみたいと思います。私たちがそれをどのように個人に取り入れ、同時に、私たちが召され集まる教会の体にそれを取り入れるべきかをです。私たちがこれが必要です。私たちが全員がこのことを理解できるように祈ります。まず、使徒パウロが始めるこの地域とこの教会について詳しく説明し、どのように神の御霊の確固たる福音がそういう信仰を生み出すことができるのか学びます。

さて、テサロニケについてですが、ご存知の方も多いと思いますが、テサロニケはギリシャ北部の重要な都市でした。商業だけでなく、軍事的な戦略拠点でもありました。しかも、ローマからアジアに通じる主要街道周辺でした。ここで生産され、交換されたお金はエーゲ海の他のどの都市よりも、多かったです。それを考えましょう。あらゆる商取引が行われる、金融拠点でした。では、そのような場所にはどんな種類の人間が集まっていたと思いますか？ 軍事的だったし、あらゆるお偉方、発案者、世界の旅行者、などなど... つまりかなり人口が多く、人気の場所です。そして誰が見ても多くの民族が混在していたようです。そこには、ユダヤ人の大集団や、ユダヤ人の改宗者がいたことが分かっています。街中にはシナゴグがあり、その時代の異教徒が礼拝する場所もありました。ですから、ここの状況の雰囲気は想像がつくと思います。このような中、使徒パウロが福音のメッセージを携えてやって来ます。時は、紀元 49 年から 50 年頃です。使徒パウロは、ある人からマケドニアに来るよう依頼される夢を見ます。そこで、パウロはエーゲ海を渡り、まずピリピで説教をします。でも、ピリピで彼がどうなったかは知っていますよね？ 彼はピリピから追放されました。それが彼の身に起こりました。その直後、彼はテサロニケに行くことになります。到着するとパウロは、まず常の事ながらユダヤ人の会堂で説教をしました。人々が救世主に立ち返り、福音を広める働きのため、彼を助けてくれることを願って、このようなことをしたのです。しかし、彼がそこにいる間、喜んで福音を受け入れたのは、結局その地域の異邦人たちでした。そのことは、そこにいたユダヤ人にとって、気分が良いものではありませんでした。彼らは怒りました。そして、イスラエルの神を受け入れる異邦人たちに、割礼を受けさせようとし、モーセの律法のあらゆる面を主張しました。そこで暴動が起こり、パウロは去ることを選びました。それが、3 週間ほどしか滞在せず、早々にそこを去った理由です。それから彼はベリヤに旅立ちます。で、ベリヤでどうなったかは皆さん知っていますね。彼は、そこからも追い出されました。考えてみてください。使徒パウロの立場になって考えてみましょう。彼は伝道のために召された 3 つの町から追い出され、イエス・キリストの福音を受け入れた熱心な改宗者は数人だけでした。皆さんついてきていますか？ 私がこの描写を描きたいのは 私たちの心にとって本当に大切だからで、というのも、今、使徒パウロはコリントにいます。そして、後にコリントの人への手紙を書く際、「第一コリント人への手紙 2 章 3 節」の通り、このことを記します。神の御言葉をお読みします。

I コリント 2

3 あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。

彼が話しているこの時間軸が分かりますか？ これが、当時の使徒パウロが置かれていた状態です。ピリピで拒絶され、テサロニケを追い出され、ベリヤから去りました。彼は今、コリントにいます。霊的にも弱く、疑いなく肉体的にも弱まり、命の危険にさらされています。そして、皆がパウロを憎んでいるよ

うに思え、恐れおののいていました。これは使徒パウロの人生で最も弱い時期です。そこに、テモテとシラスがやって来て、テサロニケの教会がうまくやっていることをパウロに告げました。そのことが、彼の心に何をもたらしたと思いますか？ 遠国からの朗報です。それは、彼を高揚させたはずで、神は御存知であられました。その朗報を受け、使徒パウロはコリントに留まり、そこで努力を続け、数週間しか植え付けをしなかった（テサロニケ）教会に最初の手紙を書いているのです。皆さんついてきていますか？ 分からなくなっていないですか？ ついてきてくださっているなら、神を褒めたたえましょう。一人か二人はおられますよね。－(笑)－

神の御言葉は決して空しく帰りません。(イザヤ 55:11)

聖霊がこの教会で行われたことが、それを非常に物語っています。自分の信仰を疑うことなく、なぜそうなったのか、どうすればその力を利用できるのか、私たちは、できる限り注意を払う必要があります。2節を見ると、私たちは、この御言葉から導きだされる最も顕著な原則を見ることができます。御言葉をお読みします。

「私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。」

彼らがこの教会のために祈っていたのがわかりますか？ この教会は忘れ去られることはなかった。特に使徒パウロが経験したことの後では、容易に忘れ去られる可能性があったのに。考えたくないことは「テサロニケ？もういいよ！」でしょ？ それは私の場合です。私たちは3週間そこにいて、何も起こらなかったし。しかし、そうではなく、彼らはこの教会のために祈っていたのです。これが、使徒パウロが同胞のしもべたちに対して持っていた愛で、彼が真の生ける神による召しに対して、いかに献身的であったかを示します。パウロだけでなく、テモテやシラスも同様に、手紙にこう書かれています。「私たちは”・・・神に感謝をしています。」他に、どんなことが書いてあるか知っていますか？ 彼らは、いつも一緒に祈ったと書いてあります。一心同体で、同じ事を共に祈る。彼らは主に語りながら、一致していたことでしょう。その熱心な祈りが生み出したものが、3節にあります。

「私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。」神は見ておられます。それが信仰を生み出す助けとなり、単なる無為な信仰ではなく、信仰の業を生み出したことがわかります。彼らは、行動的でした。そして、それが知られるようになりました。それだけでなく、労苦した愛の行為も。受けるだけの受動的な愛ではなく、彼らの忍耐がわかります。イエスにある希望について、落胆することはありません。繰り返しますが、父なる神はそれに心を留められます。これが、主が来られるまで、専念し続ける実例です。それがあなたの仕事です。じっとしているわけではありません。(皮肉的な言い方)「主が来られるのが待ち遠しいわ。。。」－(笑)－ なんと不動の若い教会でしょうか。今の時代、こういう属性がある経験豊かな教会を探すのは難しいでしょう。しかし、繰り返しになりますが、すべてを分解してみると、すべては祈りから始まります。私たちは最後にいつ、教会全体のために祈りましたか？ 地元の教会だけを意味しているわけではありません。イエス・キリストの主権下にある全ての教会のことです。最後に教会のために祈ったのは、いつですか？ 使徒パウロはいくつかの教会を監督していましたが、その全てに祈り、しかし、彼はまた、教会全体のためにも祈ったのです。「エペソ人への手紙の3章20節と21節」に、こう記されています。

エペソ 3

20 どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、

21 教会において、またキリスト・イエスにあって栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン。

私たちは今もこの祈りをする。違いますか？ 世々限りなく、とこしえまでも。たとえ地獄の門が教会に勝てないとしても、私たちは教会のために祈ることを決してやめてはならないのです。私たちは常に教会のために祈らねばなりません。これは、教会もその確固たる信仰があることを証明し、示せる部分です。彼らの行動的な信仰と愛の証しを、これから見ていきます。しかし、使徒パウロは、4節で驚くべき文言を書いています。御言葉をお読みします。

「神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。」これは若い教会に向けた、おべんちゃらのように見えるかもしれませんが。ほら、花で飾られたような言い方、「あなたがたは、神によって選ばれた。」気分良くさせます。いいえ、違います。そうではありません。これは大きな意味です。重みある言葉です。実は、彼らを祝福すると同時に、彼らが高慢にならないようにするための文言でもあります。なぜなら、この「神に選ばれている」はまさに神がなさっておられる事です。聞いていますか？ それは、神の御業です。そう、彼らの御言葉への信仰は、神にとって実現するため必要で、しかし最後は明らかにされるすべての御業が主のものであります。誰も誇る事ができないためです。

(エペソ 2:9)

それらの業は、神から来ます。彼らは、それに従順でした。また、この箇所には、もう一つ、私たちが祈って考えるべきことがあります。この「神に選ばれている」は、確定的で最も永久的な位置づけです。言い換えれば、その選びは、取り除けません。聖霊は、使徒パウロに、一見些細な聖句の中にこのような重要な内容を加えるよう促されたのでしょう。この御言葉によって分かることは、彼らが確固たる信仰を持ち、疑うことなくキリスト・イエスにあって自分たちの位置づけを確証したことです。その選びが、試練の時を耐えさせます。彼らがイエスと共にいたことも、またイエスが彼らと共におられたことも明らかです。彼らの信仰の証拠が、完全に示されました。私たちには、それがありますか？ 私たちは、選ばれたことに確証がありますか？ 5節から、彼らがそれを信じていた事を正確に知れます。御言葉をお読みします。

「私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおりで。」

あ～これです。シンプルな福音のメッセージです。その贖いの御業は、神の御言葉が語られる事で彼らに示され、祈りによってもたらされたのです。点と点が繋がりますか？ このメッセージは力強いのです。福音が力強いのです。こんにち、この力強さはとても低く評価されています。しかし、4節にあるように、キリストにある彼らの位置づけを証印するものでした。人々は福音に飽きてしまうのですって？ よくもまあ、相変わらずのメッセージですって？ マジですか？ お～失礼ですが、あなたを救ってくれる他ののを探したらどうですか？ 福音のメッセージに飽きたらどう？ 福音にはパワーがあるのです。恐らく、他に何か不都合があるのでは？ 彼らがメッセージに確信したのは、そのパワーによって確信したからです。分かりますか？ 確信したからです。それが足りないのかもしれませんが。福音がつまらないのは、そのせいかもしれません。そうかもしれません。聖霊が確証を与え、それがメッセージを伝える人々

の中で明らかでした。言い換えれば、聖霊が話す人たちの中でまたその人たちを通して働かれた。理由は、彼らが話すメッセージに信念があった。違いがあります。一日中話すことはできます。しかし、あなたはそれを信じますか？ それは言葉だけでなく、パワーが伴います。それが違いです。極めてシンプルです。聖霊の御力に満たされ、聖霊の御力が溢れ出る。もしくは、口先だけの言葉で、全く力がない。彼らは御霊によって語ったのです。御霊（聖霊）が、話しかけられた人々の人生に語りかけ、こんにち私たちがそこから学べる大きな教訓があります。なぜなら、多くの高貴なクリスチャン、言わば、教会やそういう組織は、自分たちの肉の努力で福音のメッセージを提示しようとし、彼らは、福音のメッセージをプログラム化したいのです。

「あ〜ちょっとつまらないですね。何か違うことで、人々をイエスに導こう。」本当に？ 分かりました。どうなるか見ましょうよ。それは、神から奪っています。彼らは、福音を示さないことで、神から奪っています。福音には力があります。これらの教会はその責任を負い、ある意味、改宗者の報酬を探しています。

「ああ、先週ちょうど、千人の魂を回復させましたよ。」本当に？ そうしたのですか？ 福音メッセージなしで？ 福音とは関係ない、リバイバルとかをしてですか？ それは、私たちが陥りやすい大きな罠です。私たちがこの罠にはまらないためにも、聖書に記された境域で、福音のメッセージをシンプルに伝えることが大切です。結局のところ、神の御言葉は聖霊によって啓示され、確信させるのは聖霊なのです。「ヨハネの福音書 16 章 7 節と 8 節」、御言葉を読みます。ここでイエスが語っておられます。

ヨハネ 16

7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主（聖霊）はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。

皆さん、分かりますか？ あなたのプログラムでは無理です。これらのことを成し遂げるのは、聖霊の御力によるのです。そして、神の民は皆、聖なる御言葉を通して聖霊の聖なる御力を活用できます。6 節と 7 節に移るに際し、もしも主の来臨が遅れるなら、この節をよく考えてみる必要があります。私たちはこの理解をする必要があります。では再度読みます。

I テサロニケ 1

6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

7 その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいるすべての信者の模範になったのです。

使徒パウロは彼らに言います。「多くの苦難の中でみことばを受け入れる」これは、パウロが抱えていたトラブルのことを指しているのでしょうか。イスラエルの神を信じるすべての人々にユダヤ人たちが、割礼とモーセの律法を教え込むのを望んだとき、パウロが去る原因となった全暴動が起きました。使徒パウロはこれに反対しました。また、同時にそのような人たちが主に従うようになります。今の私たちにとって、この苦悩はまだ異質な感じがします。つまりこのアメリカで、教会に関して、どのような苦悩が、どのような規模で、実際に、置かれているのでしょうか。こんな風（6 節）に悩んだことがあるとは本当に言えないですね。そしてこの手紙の後半で、ユダヤ人だけでなく、自分たちの同胞にも苦しめられたのです。みんな、のぞき見しているんです。ですから、多方面から迫害されました。しかし、それでも彼らは

聖霊の喜びをもって耐えることができました。これが分かりますか？ 私たちの学びがたくさんあります。しかし、彼らの確固たる信仰の別の側面を指摘させて頂きます。「確固たる信仰」とは試されることが多いのです。試されます。決して彼らの信仰は薄っぺらではありませんでした。彼らの信仰は、当時の宗派の圧力に屈することはありませんでした。彼らの信仰は、迫害する人々の下でも屈することはありませんでした。堅く立っていました。こんにち私たちはそう言えますか？ わずかな圧力をかけただけで、国全体が腰砕けになり、崩れてしまった。目にするのはとても悲しいです。”小文字の g (god=偽の神)”が言ったこと全てに、人々は従いました。「神様 (god)、ごめんなさい。」それ政府ですよ～ それが神の御言葉に反していてもです。私たちが生きている時代は、ますます悪化して行くため、私たちは説いたことを実践したほうがよいでしょう。神は人の心を知っておられます。一日中ここに座って、お互い騙すこともできるでしょう。あなたは巧くやるかもしれません。しかし、神の御前で心は裸です。私たちが信仰に堅く立とうとしないなら、そもそも信仰があるのでしょうか？ それが、福音のメッセージがあなたにはつまらない理由なのでは？ このような確固たる信仰は、揺るぎません。これからの数週間、数ヶ月先に、個人としても、教会としても、そういう信仰が必要になってくるでしょう。次に進む前に、この聖霊の喜びを見過ごしたくありません。第一礼拝でもお話ししました。事実、先週もその話をしました。喜びは、苦悩に付随する事情とは全く繋がっていないと教えています。繋がっていません。全く関係ありません。私たちは主にあって喜びます。私たちは喜びについて多くの歌を歌います。”主の家には喜びがある” カポノ、後でほんとに歌ってくれないかな？それは素晴らしいです。主の家には喜びがあるからです。私たちはその喜びを発揮し、世の中で何が起ころうとも、ふさわしい方、主に栄光を与えねばならないのです。「詩篇 16 篇 11 節」をお勧めたいと思います。神の御言葉をお読みします。

詩篇 16

11 あなたは私にいのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びが あなたの御前にあり楽しみがあなたの右にとこしえにあります。

ここで言われていることを、喜びの観点で捉えたいと思います。御言葉が語るには、「満ち足りた喜びがあなたの御前にあり」半分ではなく、満載の喜び。少しでも、ほとんどとかでもない、満ち足りた喜びが主の御前にある。そこにあるのです。そして、私たちには、「主の御前に」という御言葉があります。そして今も、聖霊の御力によって、主は私たちの内に存在しておられます。では、誰が私たちの喜びを奪っているのでしょうか。もし神の御霊が内におられるならば、なぜ私たちは、敵に喜びを奪われることを許すのでしょうか。私たちの内におられる聖霊のおかげで、このような喜びを持てます。本文 8~9 節では、先に述べたその信仰と愛の行為の副産物などが御言葉で示されています。再度、神の御言葉をお読みします。

I テサロニケ 1

8 主のことばがあなたがたのところから出て、マケドニアとアカイアに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰が、あらゆる場所に伝わっています。そのため、私たちは何も言う必要がありません。

9 人々自身が私たちのことを知らせています。私たちがどのようにあなたがたに受け入れてもらったか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、そんな中、この教会、この若い教会から主の御言葉が発せられ、あらゆる場所で鳴り響くことに、気づかない筈ないでしょう。分かりますか？主の御言葉が彼らから発せられました。最低限、その言葉が、神の

御言葉の最も重要な側面であり、彼らが最初に受け取った御言葉、「イエス・キリストの福音」です。皆さんついてきてますか？ そして、ここに書かれている彼らの神への信仰によって、彼らは間違いなく聖書全体に精通するでしょう。使徒パウロが、「これ以上何も言う必要がない」と言うのです。なぜなら、もし彼らの教義がずれていたなら、使徒パウロはそれを指摘していたはずですが。そう思いませんか？ 少しでも曲解していたら、使徒パウロが指摘していたはずですが。しかし、彼らが受け取った報告（手紙）は、彼らが受け取った手紙は、この若い教会から発せられた御言葉について、パウロに何も言わせないようにさせました。聖書を内外から知り尽くしたパリサイ人中のパリサイ人がここにいました。異邦人への使徒へ、「何も言う必要がありません。」彼らは、御言葉において強くありました。つまり、彼らは自分たちが何を話しているのか、またもっと重要なのが、誰のことを話しているのか知っていました。だからこそ、彼らの信仰は多くの人に知られるようになったのです。その一例として、どのように広まったか、当時の地域地図をご紹介します。さまざまな地域があります。心に留めてください。この教会からの御言葉は、徒歩、ラクダ、馬、ボロ船で広められ、私たちが高速移動手段として考えているものは、何もなかったのです。私の言いたいことが分かりますか？ テサロニケからマケドニア、アカイアまでこの地域内のあらゆる場所です。そして、継続的に広がるためには一貫性が必要でした。また、9節では、偶像から立ち返ることが書かれています。その文化で、それは並大抵のことではないでしょう。彼らは若い頃から偶像崇拜で育ち、その土地で崇拜されていた神々、異教徒の神々を崇拜していました。そして今、福音のメッセージによって、彼らは今まで教えられ、慣れ親しんできたものをすべて拒否し、主の召しに応える決心したのです。どうやって、召しを受けたのか？ 福音のメッセージを通して聖霊の御力です。彼らは瞬時にして、真の生ける神の事柄に真剣に取り組むようになりました。さらに、そういう確固たる信仰を持つことで生み出されるもう一つの側面があります。確固たる信仰の結果は、主に専念する事です。そう思いませんか？ そのため、私たちは慣れ親しんだものをすべてを捨てなければなりません。そして、この召しに応える。私たちは、真の生ける神に完全に従い仕えるため、自分の人生にある偽りの神々を進んで手放すべきです。「私たちのほとんどは、若い頃から異教の神々と共に育ってきていません。私たちは、幼い頃から教えられてきたことをすべて捨てる必要がないですよ。」いいえ、私たちは途中で神々を拾いますよね？ でしょ？ 私たちは、神々、小文字の"g"=gods/神々を拾います。結局そういうことなんです。明らかに、私たちの神が十分ではないと考えます。でも、そうではありません。私たちの神が十分良くないのではなく、神は唯一の善の源です。問題は、私たちが神を十分に理解していないことです。それが問題です。それが問題なんです。私たちの信仰は、そのような小さな神々に向かって誤った方向に進んでしまっていて、救ってはくれない小さな神々に。私たちのためになることは何もなく、私たちを苛立たせるだけ。でしょ？ その神が何であれ、名前をつけられます。どこかで苛立ち、全然あなたを救えない。そしてそれが真の生ける神からあなたを遠ざけます。私たちの信仰が真の生ける神に向かうなら、私たちの信仰は、主に専念するという栄光の様相を生み出すでしょう。それが確固たる信仰で、私たち皆に必要です。では最後の節と本文に入ります。10節です。控えめに言っても重要な節であり、神の御言葉を読み、締めくくるには最適です。

I テサロニケ 1

10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスです。

それができるからといって、複雑にするつもりはありません。質問は、この10節の記述だけで、テサロ

ニケの教会に語られたことが、イエスに関係するものであることに何か疑う余地がありますか？ここに書いてあることを見てください。使徒パウロがここで書いていることだけでも、この教会は、イエスが来臨され、来たるべき御怒りから私たちを救う事実を含む福音のメッセージのあらゆる側面を明確に理解していたと結論づけられます。何と書いてあります？彼らが知らないかのように書いてはいません。彼らがそれを知っているから、書いているのです。それがはっきり分かります。神の御言葉が何と語るか見てください。「御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを」つまり、彼らはイエスがどこから来られるのか、イエスが誰のために来られるのか知っていたのです。イエスの教会の為です。彼らは分かっていました。彼らは、主が自分たちを救うために来られるのを、確信を持って知っていました。彼らは既に救われていて、今、贖い出されるのを待っています。彼らは、教会携挙という形で贖い出されることを知っていました。これは健全な教義です。彼らは、私たちを贖い出されるのがイエスだと理解していました。

さて、教会よ。最近特に、このコロナの影響で、金融、金融問題が迫ってきていて、試練の時であることは分かっています。彼らは何をやっているのか、全く分かりません。ガソリン代は、1ℓ 約 280 円。そうですね？それが私たちが目にしている事。しかし、私が言いたいのは、このガラクタ全ては、人間の怒りと恐怖、人間の仕業です。人間は今、こんなガラクタを誘導しています。非常にはっきりしています。そして、彼らは惨めに失敗しています。彼らは神を演じようとしています、それができません。神には御計画があられます。お～主には御計画があられます。そこで、地球に住むすべての人にお知らせしたいことがあります。これを知っておいてください。この地上に注がれる御怒りは、イエス・キリストの力強い御手によってなされます。人はそれを曲解し、悪魔がこの世に審判を下すと思込んでいます。違います。神がなさいます。それが、来たる御怒りです。(今起こっている) 全ての事など、神がなさろうとしていることに比べれば、大したことはありません。その時が来れば、神はこの星に災いを放ち、コロナを歓迎する祝福を与えられるでしょう。あなたはその啓示を知らないのですか？ 見てみてください。もうすぐそこまで来ています。来ています。人口抑制の心配は無用です。ううん、ん、ん、ん。聖典によると、数十億が削減されます。人の手によるものではなく、神の御力によります。これはすべて、信じる者がすべて救い出される、主の義の裁きの一部です。テサロニケの教会の人々は、その救出を期待していたのです。後の書物などの中で、多くの疑問が生じたとしても人の子の携挙による救出を信じる彼らの信仰は確固たる信仰でした。彼らの神の御言葉に対する信仰が、不動だったからです。ですから、10 節と章全体に関して、彼ら確固たる信仰の重要な副産物は、「常にイエスを待ち望むこと」だと私は考えます。これで決着がつきます。彼らは救い主を待ち望み、王の王への期待が彼らの行動を駆り立てたのです。だから彼らは堅固な岩だったのです。常に上を見ているから。そして、忘れてはならないのは、これはすべてイエス・キリストの福音が彼らに伝えられたことによって生じたということです。これが分かりますか？彼らが福音を信じたので、彼らの信仰は、疑問なしにキリストに捧げられました。彼らの信仰は試され、試練におかれ、福音を信じることで信仰が強められました。彼らは、神の事柄に専念していました。彼らは御言葉にしがみつきました。彼らは、力強く主の御言葉を語りました。彼らが受け取ったメッセージが力強く受け取られたからです。そしてそのメッセージが、「イエス・キリストの福音」でした。彼らは、神の聖霊に頼り、この 10 節にあるように、彼らは主の来臨を待ち望んだのです。それが彼らを神の御言葉に飢え続けさせ、彼らは主に近づきました。それが、彼らに完全な神の御心を行い続けさせました。神はそれに目を留められました。だから個人としても、教会としても、このすべてから学ぶこ

とができます。私たちもこの全てから学べるのです。イエスがもうすぐ来られます。私たちは、主の到来を待ち望み、私たちを救い出される時、忠実であるのを見ていただくのです。福音がこのような確固たる信仰を生み出すことができたからこそ、福音の力を誰一人として忘れてはならないのです。ご起立ください。祈りましょう。

天の御父よ、あなたの御言葉に心から感謝します。

主よ、私たちは永遠にあなたに恩義を感じます。あなたが私たちをこの場所から救い出し、あなたと一緒に連れて行かれ、再び戻って来て、この世を義によって正しく治めて下さるのを期待します。私たちはその日を待ち望みます。あなたが私たちを家に召されるまで、私たちに耐えうる力を与えてください。私たちの生活で、あなたがしてくださっていることに、本当に感謝します。私たちに与えられた時間をよりよく使えるようにしてください。あなたの完璧な御心に留まることができますように。私たちはあなたを愛しています。一日中あなたを賛美します。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7